

予防接種 助成始まる！

- ①子宮頸がん予防ワクチン(女子)
- ②ヒブワクチン(乳幼児)
- ③小児用肺炎球菌ワクチン(乳幼児)

剣淵町では、3つの予防接種費用に対して全額助成しています。

子宮頸がんとは？

子宮頸部と呼ばれる子宮の入口より発生するがんのことをいいます。

子宮頸がんの原因は、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染です。多くの場合、性交渉によって感染すると考えられ、このため性行動のある女性に感染する可能性があります。

30～40歳代での発症が多く、生命のみならず、妊娠や出産の可能性を奪ってしまう病気です。



子宮頸がんの予防

なぜ若いうちに予防するのか？対象年齢が10代前半の理由は、性行為経験年齢に達する前に予防接種することが重要とされ、すでに感染した方には、このワクチンの効果はありません。また、20代からの予防対策としては、定期的な子宮がん検診を心掛けましょう。

子宮頸がん予防ワクチンの助成内容

助成対象：中学1年生～高校1年生の女子

内 容：3回接種分を全額助成

助成期間：平成23年3月31日まで

※平成23年度につきましては、改めてお知らせします。

ヒブ（Hib）とは？

感染すると、細菌性髄膜炎や敗血症、肺炎などの全身感染症や中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの気道感染症を引き起こすことがあります。

年間約600人が発症し、そのうち過半数は生後4か月～1歳くらいのお子さんが占めています。また、6歳以上ではほとんど感染が見られないことも特徴です。

小児用肺炎球菌とは？

子供の多くが鼻の奥に持っていますが、本来菌がいない場所に感染すると、細菌性髄膜炎や菌血症などを引き起こすことがあります。また、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎などの原因になることもあります。また、初期症状は発熱などで、早期に風邪症状と区別することは困難です。

年間で5歳児未満児10万人当たり200人程度に重い感染がみられ、生後3か月～5歳くらいのお子さんがかかりやすいですが、5歳以上での感染はまれです。

ヒブ・小児肺炎球菌ワクチンの接種回数

ワクチン接種開始年齢により、接種回数が異なります。接種回数・間隔については健康センター保健師にご相談ください。

注意事項！

- ・これら3つのワクチンは任意の予防接種です。法律上義務はありません。
- ・ワクチンの効果・副反応について十分理解のうえ、個人の選択により接種をしてください。
- ・町では副反応の発症の危険性を鑑み、ヒブ・小児肺炎球菌ワクチンの同時接種は勧められておりません。ご理解のうえで同時接種を希望される方は医師にご相談ください。

おしらせ

町では子宮頸がん予防ワクチン接種開始にあたり、子宮頸がんやワクチン接種の効果・副作用などについて保護者及び対象者向けの講演会を2月23日（水）開催します。

申し込み：母子手帳・印鑑を持参のうえ、ふれあい健康センターまでお越しください。

ワクチンの説明、受診券を発行いたします。

予 約：剣淵町立診療所に電話で予約してください。（電話 34-2030）